

2020年度 大阪府高校放送コンテスト 決勝大会

朗読部門 審査結果及び講評

審査順	学校名	名前	得点 /500	講評	
				審査員の先生の講評をまとめました。左は自分の原稿、右は決勝課題に対する講評です。(同じ着目点に対して、それを良しとするコメントもあれば、改善するように助言しているコメントもあります。)	
1	堺西	北野	359	一人称小説であることがわかれば、もっと感情移入があってもよい。きれいな発声ができている。「～の多い母親」の「～」の部分が聞き取れなかった。ラストをもう少し「終わった感」を入れてほしい。きれいな声。「遊ばせたくない」の「せ」が「し」に聞こえる。穏やかな読み。「それだけを語った」がイマイチ。場面よく浮かぶ。もう少し声を前に。「口の重い」「母親からでなく」のアクセント。自然な発声を心掛けて。うねり読みで情景出しにくいところあり。「間」の工夫している。意味の塊でブツブツきっている。	もう少し、課題文との間を空けてもいいのでは？最後の一行の前に、もっと「間」がほしい。「間」が一定で単調。
2	信愛	大谷	340	もっと動きのある描写アナウンスを！！アナウンスが平板で各シークエンスが見えてこない。タイトルコール、もう少ししっかり。文頭をもう少し高く入りると良い。音域を広く使えるように。文末の音が伸びる。この場面の読み、それでいい？(暗い)。先生のやさしさと本人の語り・地の文、もっと表現が広げられたのでは？「それは見たことがない」などがうねる。語尾が伸びる。自然な話す息づかいで伝えると作品の世界観に近づくだろう。	「しっかり治して～」の一文にもう少し愛がほしい。「そうなんですか？」は疑問かな？
3	アサ国	馬場	351	一人称表現の小説は、どのようなアナウンスにすればよいかを考えよう(→感情の取り入れ)。ラ行注意。「整えた」「調髪」などが聞き取りにくい。全体がドラマチックになっているが、一番伝えたいところが分かりにくかった。ここは語りで、調髪しながら昔語りをしている場面であるということをつまえて読もう。語っている人の年齢は？抽出に工夫を。クセ読みが少なく聞きやすい。	もう少しラストをしっとり。ここはそれほど力んで語っていないと思う。
4	浪速	刀禰	368	それぞれのセンテンスが音声転換を図ることで画が浮かぶ表現になっている。最後の言葉が分かりにくかった。後半、低くなっていた。ひどく取り乱した母、これでいい？「間」をもっと取ろう、場面が切れない。長い文のイントネーション。最後の文の解釈、どうかな？(ここは気づきの場面)場面が変わった時の「間」の工夫がほしい。	鶴瓶さんの雰囲気、よく出ていた。最後、もう少し、「間」がほしい。
5	夕陽学	植村	345	発声をしっかりと！腹から出す声で。急に高くなったり低くなったりするので不安定。「予約」「山側」「斜面」などの発音が曖昧。抽出箇所、再考してもいいのでは？イントネーション(うねり)。ここはそんなに明るく語っているのだろうか？赤青白そんなに止める必要あるかな？語り手の語り、それでいい？語尾が伸びる。語尾を下げて。地の文、ブツ切りの感あり。	少し慌てているように聞こえた。鶴瓶さんのセリフにもう少しやさしさがほしい。テンポ速い。
6	アサ国	永野	365	言葉の滑りが随所に見られる。音声の響きに魅力を感じる。文末は落とそう！登場人物の関係が分かる表現が前半にないので、場面抽出としては適していないように思う。「間」に工夫が見られる。母親のセリフ、やや違和感(→もっとゆっくり)。地の文の語り、特に締め部分、もう少し工夫がほしい。地の文がきれい。セリフと地の文の切り替えがいい。地の文が速く、場面のイメージが浮かびにくいのがもったいない。	ラスト一文、もう工夫を。最後、もっと間がほしい。間の工夫があれば、もっとよい。表現の工夫している。
7	茨木	天野	340	雨月物語を語るにふさわしい声の選択を！音声世界観に工夫を。文語文を読まされてしまっている。サ行。後半の連歌のあたりから、誰のセリフなのかわからなくなる。強弱ではなく高低を使おう。うねりあり。文頭の高音、常に同じ高さになっている。表現に工夫が見られる。浮ついた音。古典文法をしっかりと勉強して意味を伝えるように。声がくもる。語尾が伸びる。歌うように読む傾向あり。語尾伸び少し気になる。	「翌日」の後の文の処理。「カッコいい師匠」の部分、「師匠」の方が強くなっている。「カッコいい」のアクセント。
8	プル	富田	入選	ト書きと会話部分の読み方の違いを明確にした方がよい。きれいな発声で聞きやすい。マ行。後半の心中詞、もう少し楽しそうにしてもいいかも。ミスターベネットに無理矢理低い声を出す必要はない。ミスターベネットの皮肉に満ちたキャラクター、どんな雰囲気？文がブチブチ切れる。音の高低のバリエーションが良い。表現の工夫している。	全体がダラツとしてしまった。師匠と源とでメリハリを。テンポ工夫している。

2020年度 大阪府高校放送コンテスト 決勝大会

朗読部門 審査結果及び講評

審査順	学校名	名前	得点 /500	講評	
				審査員の先生の講評をまとめました。左は自分の原稿、右は決勝課題に対する講評です。(同じ着目点に対して、それを良しとするコメントもあれば、改善するように助言しているコメントもあります。)	
9	浪速	足立	350	文語文のアナウンスメントとしては◎。描写するそれぞれのシーン毎に音声転換を！昔のことを思い出す場面は、もう少し、懐かしさを入れてもいいのでは？ 自分の気持ちのよいリズムで読んでいる。せまい表現の幅の中で、同じような表現を繰り返している。タイトルはもう少し自然な声で。語尾が聞こえにくい。古文もしっかりした発声で。意味の塊の中でうねりが残る。世界に引き込もうとする声質。	鶴瓶さん、もう少しゆっくり話してもいいのでは？速すぎてしまった。表現の変化に工夫すると良い。
10	四天	嘉村	346	自分が表現する一人称アナウンスになっていない。シーン毎に音声を変える努力を。同じ音だけでアナウンスしている。「すずね」「じだんだ」「けつまつ」などの滑舌。後半、口先だけで発声していた。「夢想」聞こえてこない。想像の中と現実と後悔と、もっと差をつけて。口先だけの発音になってしまっている。一語一語が聞き取りにくい。まずは、しっかりと声を出す練習を。地の文、登場人物にももう少し変化の工夫がほしい。	課題文と決勝課題の読み方に差がない。鶴瓶さんのセリフ、それでいい？
11	帝塚山	和田	2位	それぞれのセンテンスが音声転換を図ることで画が浮かぶ表現になっている。文章にマッチする音選びをしていることがよくわかる。多種多様の音遣い◎。きれいな発声で聞きやすい。もう少し「間」を使って場面転換をするのが分かりやすくなる。やや慌てている印象(気づきの場面なので、じっくり語って。) 「額」もう少し声を前に出して。「出会っていた」のアクセント。場面理解がよくできている。テンポ、表現の変化に工夫が見られる。「間」をもう少し工夫すればよい。イントネーションきれい。	ラストの一文にもう一工夫を。最後、もっと「間」がほしい。
12	四天	高橋	6位	各シーンの描写には、こだわりを持ったアナウンスが必要。あまりにもサラッと読みすぎ。「見えない～」の後の語が聞き取れなかった。ラストの一文に一工夫を。「つきあたり変わっていない」をもっとゆっくり。難しい抽出箇所(場面わかりづらい)。「覚えてるわ」はその表現でよいか？ 声が良く出ている。セリフも地の文もよくできている。もう少し、テンポを工夫すると聞きやすい。表現の変化をしようとしている。	雰囲気伝わった。最後の表現、もっと噛みしめてほしい。
13	帝塚山	佐々木	350	音の使い方が同じになっているので、各シークエンスを描写できていない。豊富なアナウンスで語るように！「略したり～」のあたりは、自然なしぐさのことを表現しているので、そこを強調して立てすぎると文脈に合わない。文末の「夕」の音に癖(明るい)が、この場面はもっと落ち着きがほしい。「コトリと小さく柄杓や茶筌～」の切り方。語尾が下がり切らないことが気になる。抽出の工夫を。後半、表現の工夫をしようとしていた。	鶴瓶さんが、夢を語る青年風になっていた。そんなキャラクターかな？
14	相愛	吉澤	354	一人称小説であるにも拘わらず、主人公の息づかいを感じないアナウンスになっている。そのセンテンスに合った音選びに工夫を！ 助詞が引っ付くところがある。「きちんと」「わたしは」「ははおや」などが曖昧。ラストの一文の切り方が面白い。過去を振り返る場面、入り方はそれでいい？ 再チャレンジ、なぜ明るい？「見てみたかった」なぜ低くなった？ 締めはこれでいい？ マイクの使い方を工夫しよう。喋りの息づかいにももう少し近づけると、もっと場面のイメージがしやすい。後半、急ぎすぎる感。	鶴瓶さんの雰囲気が出ていた。もっと最後、決めてほしいな。
15	浪速	大友	342	滑舌がやや甘い。音声の出し方が常に一定なので、動作などのイメージが描けない。読んでしまったアナウンスの典型。高低の差が小さい。途中で言葉が伸びる。地の文も会話文も同じ調子になっている。青流れている。なぜこれを選んだの？ そんな強い読み方かな？ 「カップ洗ってくる」の言い方。マイクの使い方、工夫しよう。語尾が伸びる。下がらない。内容の理解(読解)をしっかり。読み調子残る。「間」の工夫している。	課題文と同じ調子になっている。もっと決めてほしい。
16	大市立	殿川	1位	イントネーションのついているのが気になる。朗読といえども、まっすぐなアナウンスをベースにしてほしい。豊富な種類の音声を使っている。噛んだ後も、立て直すことができた(もう少しゆっくり読んでもよかったと思った)。会話がよい。やや早い(物語についていけない。聞き手を置いていかないように)。抽出箇所、長すぎたか？ 「数え年」もっとゆっくり。全体の構成に工夫できると良い。自然な発声ができている。場面合ったスピード感ある読み。	雰囲気が伝わった。源のセリフ◎。「間」の工夫している。

2020年度 大阪府高校放送コンテスト 決勝大会

朗読部門 審査結果及び講評

審査順	学校名	名前	得点 /500	講評	
				審査員の先生の講評をまとめました。左は自分の原稿、右は決勝課題に対する講評です。(同じ着目点に対して、それを良しとするコメントもあれば、改善するように助言しているコメントもあります。)	
17	槻の木	宮崎	入選	息を切らないアナウンスに徹してほしい。娘の会話文、最初、分かりにくい。低くなりすぎるところがある。誰の会話文なのか、わからない時があった。いい場面。「でも」の後の「間」、不自然。低い声、やや苦しいか。文末伸びる。イントネーション注意。語尾が伸びて消える。マイクに頼らない発声を心がけよう。作品の内容がよく読み取れている。「トレイ」のアクセント。	もう少し、「間をとってもよいのでは？ セリフの落ちつき良い。相手に対して表現しようとしている。
18	浪速	高垣	340	小説タイトルのアクセントは正しく！！ スピードが一定なため、アナウンスの動きが感じられない。タイトルコールのアクセントが気になる。文末が不安定。意味の塊が分かるように高低を滑らかに使おう。「ザァー——」が雨音に聞こえない。イントネーション不自然。話し言葉で表現しよう。力まずに表現しよう。鼻にかかる音をやめて素直な発声を。トーン、工夫あると良い。	もう少し、「間をとってもよいのでは？ 鶴瓶さんのセリフ、優しさが感じられない。
19	大市立	木下	入選	タイトル、分かりやすく読めている。ラ行。ザ行。「世の中」の「よ」。ところどころ滑舌×。情景が伝わった。落ち着いた読み。もっとじっくりかみしめる「間」がほしい。「気づき」の場面、もっと驚きと感動をじっくり表現しよう。「血が騒ぎ」「繰り返される」「両方」のアクセント。間の取り方、テンポにやや不自然なところがあるので工夫を。深みのある声。	「翌日」の「よ」。源の雰囲気良く出ているが「はい」はおかしい。師匠優しい。もう少し「間」の工夫があれば、もっとイメージできる。
20	帝塚山	奥田	348	もっとしっかりとした声出しを。ただししっかりと塊の読みができているのでよい。「しつづけて」の滑舌。全体、早口になっている。音がところどころ流れる。もっとじっくりと場面を表現しよう。うねりが気になる。情景を思い浮かべながら読もう。抽出から伝えたい内容は？ 自然な発声を。テンポ速く、イメージしにくいところあり。	雰囲気、出ていた。落ち着いているが、もっと決めてほしい。「間」の工夫ほしい。
21	四天	濱下	3位	不用意なポーズが自然観を損なう原因になっている。タイトルコール、きれい。助詞が引ついた。噛んだ後も、しっかり立て直せた。文中、ところどころ切れた感じがした。落ち着いた読み、場面によく合っている。セリフと地の文(語り)の雰囲気良い。間の使い方が時々不自然。発声良い。音のバリエーション豊か。場面理解しやすい伝え方。解釈して表現しようとしている。	鶴瓶さんの雰囲気がよく出ていた。落ち着いたやりとり。
22	箕面自	後藤	5位	不用意なポーズを置いているため、そのセンテンスの流れがつかめない。棒読みの部分が気になる。タイトルコール、きれい。もう少し「信じている」感が欲しい。面白い場面を選べた。落ち着いた場面描写。語り手の気持ちの動き、細かく表現できている。響きのある良い声。文の切り方がやや不自然。情景浮かぶ。「間」、テンポ変化つけている。表現、工夫している。	雰囲気が出ていた。落ち着いたやりとり。
23	相愛	神舘	4位	自然な息遣いによるアナウンスが好印象を与えている。暖かいアナウンスに感じる。もう少し滑舌感を高めたい。「理解するまで〜」以降の文が幼く聞こえた。ラ行。過去を振り返っている感じがもう少し欲しい。先生の雰囲気良い。長い文の処理うまい。音の甘いところがある。落ち着いた読み。語尾が下がり切らないところがある。全体的に単調なのが残念。構成を工夫しよう。かたさが取れるともっと良い。聞いていて楽しめる音色。	鶴瓶さんを、もう少し「大人」にしてもいいのでは？「なあ、源」OK。「である」上げない。「おもしろい」→「おもしろい」